

會 務 報 告

第 28 卷 第 12 號 昭和 17 年 12 月

役 員 會

第 14 回理事會 (昭. 17. 10. 19.)

出席者： 草間會長，黒田，鈴木兩副會長，青木理事外 4 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 1 名

報 告

1. 水理公式調査委員會に於ける成案を別紙(省略)の通り鈴木委員長より報告

議 事

1. 日本發送電會社水力試験所へ土木學會誌を寄贈することとせり
2. 全科技聯に對する本會代表委員變更に就ては黒田副會長に一任
3. 水理公式調査委員會の事業は一應終了を見るに至りたるを以て解散することとし、得たる成案は不日冊子として印刷し、希望者に豫約にて實費頒布をなすこととせり、尙委員會の要望に基く水理委員會(假稱)の常置に就ては更に協議することとす
4. 土木關係の日本標準規格番號調査に關する委員會を設置すること
5. 本會創立 30 周年記念會を昭和 19 年度に於て執行することとせり
6. 土木會館建築資金募集に關しては一應本日の支部長會議に諮問することとせり
7. 支部長會議へ上程の諸議案を別紙(省略)の通り決定

第 15 回理事會 (昭. 17. 10. 26.)

出席者： 草間會長，黒田，鈴木兩副會長，堀越，福田兩理事，平井華北支部顧問，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 關西支部第 5 回役員會議事
2. 北海道支部講習會の開催
3. 日本工學會評議員會記事

議 事

1. 全日本技術團體聯合會本會代表委員三浦義男君辭任に依り山下清吉君を依囑
2. 日本標準規格番號調査委員會の委員選定は會長に一任

3. 入退會を別記の通り承認

以上議事終了後華北支部よりの提案に依る特別會員入會に對する支部交附金増額に關し平井華北支部顧問より華北支部の事業及特殊事情に就き續々説明ありたり、併して本件に關しては更に理事會を開き協議することに申合せり

第 16 回理事會 (昭. 17. 11. 9.)

出席者： 鈴木副會長，青木理事外 4 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 2 名

報 告

1. 關西支部第 6 回役員會議事
2. 關西支部第 13 回土木工學研究會記事
3. 朝鮮支部第 3 回定時總會議事及講演會，見學會記事
4. 日本學術振興會より建設機械研究委員會事業援助の通達ありたり

議 事

1. 東北支部昭和 18 年度收支豫算を原案の通り承認
2. 朝鮮支部長に本間孝義君當選せられたるに依り依囑
3. 來る 11 月 20 日(金曜日)帝國鐵道協會に於て講演會を開催し内務技師江崎善愛君，鐵道官立花次郎君に講演を依頼することとせり
4. 1 級 500 圓以上納付特別會員の入會に對する支部交付額を決定せり
5. 常議員田中 孝君，野坂相如君の轉出に依る補缺選舉は行はざることと申合せり

第 8 回常議員會 (昭. 17. 10. 26.)

出席者： 草間會長，黒田，鈴木兩副會長，酒井常議員外 3 名，中村書記長，小野寺庶務主任外 3 名

報 告

1. 日本發送電會社水力試験所へ土木學會誌を寄贈すること
2. 全日本科學技術團體聯合會本會代表委員變更(理事會議事參照)
3. 建設機械研究委員會委員に一木保夫君を依囑
4. 第 5 回支部長會議々事
5. 水理公式調査委員會調査終了報告別紙(省略)

6. 入退會承認別紙(省略)

議 事

1. 日本標準規格番號調査委員會を設置すること
2. 水理公式調査委員會の事業も一應終了したるを以て解散することとし、得たる成案は豫約により印刷頒布すること

第 5 回支部長會議 (昭. 17. 10. 19.)

出席者:

本 部、草間會長、黒田、鈴木兩副會長、青木、堀越、信澤、岩崎、山下各理事、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

關西支部: 佐藤支部長、兵藤幹事長、中川囑託

東北支部: 匹田支部長、内田幹事長、松本囑託

北海道支部: 齋藤支部長、矢吹主事

中部支部: 永田支部長、松本幹事

西部支部: 芥川幹事長、加納幹事代理

朝鮮支部: 野上幹事

華北支部: 缺 席

中國四國支部: 缺 席

午後 2 時草間會長の挨拶により開會、下記議案に就き協議せり

(本部提出)

1. 第 5 回年次學術講演會開催地の件
2. 30 周年記念事業資金に關する件
3. 土木會館建築資金募集の件
4. 正會員に轉格勸誘の件

(關西支部提出)

1. 南方事情、特に土木に關する通信の蒐集をなし會員に周知せしむる方法を講ずる件

2. 東亞共榮圈諸國の土木事業調査のため土木學會より調査員派遣の件

3. 定款第 36 條削除の件

(西部支部提出)

1. 支部に調査部設置の件

本部議案第 1. 第 5 回年次學術講演會は昭和 18 年中部支部管内に於て開催する事に決定せり、尙第 6 回は朝鮮支部管内に於て開催することに申合せり

同 第 2. 本會創立 30 周年記念會を昭和 19 年に於て執行することとし事業資金の募集に際しては 25 周年記念會當時と同様各支部に於て盡力することとせり

同 第 3. 土木會館建築資金の募集に關して

は全會異議なく了承せられたり、依て理事會に於て更に協議の上具體案を作成支部に依頼することとせり

同 第 4. 准會員より正會員に資格變更勸誘に就ては名簿調製の時期迄に各支部管内夫々の機關に依り轉格を懇願することとせり

關西支部議案第 1. 南方事情、特に土木に關する通信の蒐集をなし會員に周知せしむる方法を講ずる件に關しては本部大東亞建設調査委員會に於て計畫調査を進めつゝあり、併して調査終了のものより順次土木學會誌に登載する豫定なり

同 第 2. 東亞共榮圈諸國の土木事業調査のため調査員派遣の件は理事會に於て協議の上考慮することとせり

同 第 3. 支部内規に關聯して定款第 36 條を削除するの件は支部内規の善用に依り解決することとせり

西部支部議案第 1. 支部に調査部を設置し調査部長を役員とするの件は考慮することとせり

以上の議事終了後午後 5 時より丸之内會館に於て晚餐會を開催し午後 7 時散會

總 務 部 記 事

大東亞建設調査委員會幹事會 (昭. 17. 11. 4.)

出席者: 青木、小宅、片平、横田各幹事、小林君、小野寺庶務主任、

協議事項

1. 大東亞建設調査に關する資料中、比律賓の總論に就き其の取扱方を協議の結果、土木學會誌と同様の組方に於て登載することとし内容を検討する便宜上グラ刷を作成することとせり

2. 資料の分類別整理登載に關し協議の結果、調査地域及各部門別に記號を附することとせり

第 26 回對爆調査委員會 (昭 17. 11. 5.)

出席者: 釘宮委員長、青木委員外 8 名、小野寺庶務主任

協議事項

1. 鹿島委員提出 1-4 其の他及知野委員提出 1-2-2 彈道(グラ刷)に對する遂上審議を行ふ

第 8 回建設機械研究委員會 (昭. 17. 10. 23.)

出席者: 本間第 2 部委員長、澁谷委員外 10 名、宮澤囑託

協議事項

1. 外國に於ける建設機械の機能並に水準調査方針に關し協議したる結果、各委員は文獻により内外地製品の比較を行ひ調査報告書を提出することとせり

君 三浦庄之助君 上升主計君(新任)
 藤謙次郎君 富田直次君 大島滿一君
 佐藤助彦君 新郷高一君 鈴木 敏君
 (留任)

講演：(1) 始應力に附與せる鐵筋コンクリートに就て 工學博士 安宅 勝君
 (2) 大東亞戰爭と朝鮮經濟の特殊性
 森谷克己君

出席者： 100 名

見 學： 興南工場地帯

編輯部記事

第 11 回會誌編輯委員會 (昭. 17. 11. 11.)

出席者： 福田委員長、五十嵐、岡本、近藤、篠原、須之内、星野、本間、最上各委員、志村編輯主任、鹽谷、梅津、鈴木、内村各編輯囑託

1. 第 28 卷第 10 號登載原稿謝禮決定
2. 第 29 卷第 1 號登載原稿を決定

關西支部記事

第 6 回役員會 (昭. 17. 10. 26.)

出席者： 佐藤支部長、上井評議員外 6 名、兵藤幹事長、光井幹事外 6 名

報 告

1. 昭和 17 年度支部長會議々事
2. 昭和 17 年度關西大會實施方法
3. 幹事依頼 (小島兼文君)
4. 講演會開催

第 13 回土木工學研究會 (昭. 17. 10. 26~28.)

講 師： 熱帯生活と日本人の心得

醫 學 士 今村芳太郎君

南方建設概況

工學博士 森田慶一君

國土計畫と綜合土木

工學博士 金森誠之君

聽講者： 第 1 日 451, 第 2 日 454, 第 3 日 489 名

朝鮮支部記事

第 3 回定時總會 (昭. 17. 10. 10.)

會 場： 朝鮮遞信事業會館

議 事： (1) 會務報告 (2) 支部長選舉 (3) 評議員選舉

役員選舉の結果次の如し

支部長 本間孝義君 (新任)

評議員 伴 格夫君 西松三好君 正木龍二君

藤井雄之助君 東司彦一君 佐藤勘次

第 4 回年次學術講演會記事

1. 準備 前年度より仙臺市に於て年次學術講演會を開催することは決定してあつたから準備の必要ありとのことで、第一に大東亞戰爭中でもあり物資不足の折柄、多人數の會合はどうかとの不安もあつたので當局に相談した處、學術の會ならば差支ないのみならず大いに盛んにしなければならぬ事であり、宿屋への米等の配給も差支ない程度にすると云ふことで實施すべく 4 月 10 日に役員會を開いて決定し諸般の準備に着手した。

6 月 10 日第 1 回綜合委員會を開き講演、見學、接待、庶務の 4 部に區分し各事務分掌を定め夫々取急ぎ準備することを申合せた。講演者も時局柄少ないとの心配から特に選んで依頼狀を會長及委員長名にて差出すこと、部會の區分、1 人の講演時間數等を決定した大會を開催するに當り豫算の申請をする必要あり 7 月 5 日編成をなし本部に提出し承認支給された。

8 月 10 日に講演プログラムを土木學會誌 9 號へ會告として登載するので原稿の請求を受け 8 月 21 日支部長以下役員全部會合して決定し、翌 22 日午後本部へ送附した。主なる見學地十和田湖は 10 月 17 日頃は見物にはよいが混雜して困るし、よい宿が充分に得られないからとの考へで開催日を繰上げて 10 日、11 日の兩日と決定し土木學會誌第 28 卷第 9 號に論文題目、見學プログラムと共に發表した。申込みは 9 月 28 日までとして申込みに關する書類をもつて 9 月 15 日頃には會誌配本になつた。

論文の數は 58 名に及び安心した次第である。是れは全く關係各位の御盡力と會員各位の御努力によることで委員一同深く感謝した。1 人の講演時間を 25 分とし、圖表の取換へ其他に 5 分を要することとして

各部の講演順序を配列して大會プログラムを作製した。而して缺席があつても繰上げたり移動したりすることは全々やらないことにして是非表の通り時間を進めて最後には第二會場第三會場から第一會場に參集してきて其處で閉會式をやつて終了をはつきりさせる様時間、會場等をきめた理である。何分は日數がないので順序時間入りのプログラムを出席會員に前送することの出来なかつたのは残念であつた。戦時下各關係箇所よりの御出席も容易でないと云ふ考から改めてハガキ又は封書を以て出席し得る様に御配慮を願ひたく依頼状を出した。

かくして締切近くの日にて於て出席會員 200 名 宿舎希望者 91 名と云ふことで豫想した數とは大差があり約半數と云ふことで直ちに其手配をした。特に宿舎の方は面倒が起るので數の加減はむづかしかつた。後で増したとき自由がきかなくても困るので委員の苦勞が多かつた。見學に於てもあまり豫定と差があると總ての點で困るので見學委員も臨機の處置に苦心したわけである。400 名出席を豫想し、其約 6 割近くは見學と見て各班の參加者數を配分したが實數は約半數で各班とも臨時申込の餘地が充分あることになつた。懇親會の方も前例をみて約 3 割しか御出席にならぬとの見當から 100 乃至 120 人の數であらうと思つた。物資節約を要する現在、あまり數の差を生づることは困る、特に豫想より少ないことは困る、増す方は 2 人分を 3 人分にしても間に合せることが出来るから甚しき無理はないと云ふことなど考へさせられたのであつた。

さて 9 日、10 日の前日及び當日になつて出席、參加者の數をみると心配した程でもなく寧ろ丁度好都合な數であつたと云ふことになつた。之は皆さんの御盡力によること、委員一同は喜び且つ感謝した次第である。申込者の名簿に附した番號で分る通り 263 が 265 になり終に 273 名の多數の出席者を得るに至り、懇親會の方も 100 名内外から 150 名となり終に 161 名の實數となり出席率もよく大廣間も超滿員非常な活況を呈するに至つた。見學に於ても各班とも相當數に増し都合よく見學し得ることになつた。市内の見物者も殆んどないかとの豫想は外れて案外多くの方々が學都仙臺を多くの方面より視察して戴いたことは之又愉快なことであつた。戦時下の會合としては數に於て先づ見當にたいした外れがなかつたと云ふ結果を來した。

10 月 9 日の夜 6 時には本部よりの招待を受け後で催すべき慰勞の會を前にして明日からの會には大に

盡力する様にと元氣づけてくれた。役員各位も奮發、感激して各其分擔事務に於て最善をつくすことになつた。仙臺市では講演する爲めに遠方より來仙してくる講演者を 11 日の夕方には本部の慰勞會と同様な催をすると云ふことになり各講演者に招待状を出した。總てが會としては順調に行くべくなつてきた。即ち數に於て適當であり、本部の慰勞會もあり、講演者招待會も催される、異例の懇親會出席者を得、宿舎、申込者數見學者見物者の數も又手頃の數と云ふことであつた。

2. 會場及役員 開會式場及び第四會場は大學講堂にて講演は第一、第二、第三講義室にて行ふべく準備せるも中途にして講堂は移轉改築工事に着手し使用不可能となり不得止めて離れた仙臺高工の講堂を借用することになつた。多少參會者にとつて不便であつたことは恐縮してゐる。準備及び事務の進行上仙臺高等工業學校土木學科教室、東北支部地域内の内務鐵道兩省關係、六縣廳、諸會社及び仙臺市等の會員を以て委員會を組織し支部長より下記の如く委員を夫々依頼した。

土木學會第 4 回年次學術講演會出席者名簿
(昭和 17 年 10 月)

大會役員

會長	草間 偉		
副會長	西田敏夫	鶴見 一之	
講演委員長	内田 泰郎		
副委員長	飯島馨之助	庄司陸太郎	松木 憲司
	渡邊 義道		
委員	叶 儀	加藤平吉	笠原 宏
	後藤季總	今野彦貞	佐藤東次郎
	薄田 清	鈴木邦彦	武田義明
	長濱時雄	深井浩三	結城朝恭
見學委員長	庄司陸太郎		
委員	池田徳治	叶 磯	加藤平吉
	加藤 清	門澤利三	笠原 宏
	菅 良二	幸野弘道	後藤季總
	佐藤東次郎	鈴木邦彦	薄田 清
	高橋清藏	高橋大藏	武田義明
接待委員長	飯島馨之助		
委員	門澤利三	菅 良二	笠原 宏
	鎌田 謙	幸野弘道	國分 浩
	薄田 清	龍田直三	高橋大藏
	馬場宗光		
庶務委員長	深井浩三		

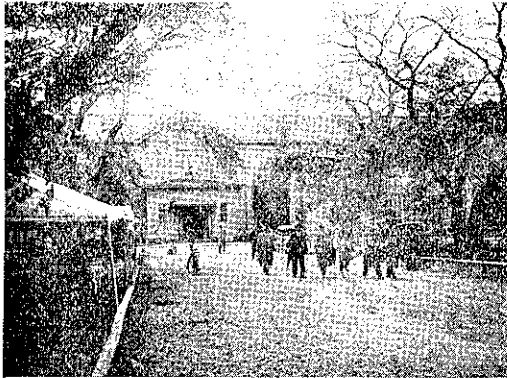
委員 西丹六 千葉伊勢雄 松本龜松

3. 講演會 第1日は危ぶまれてゐた曇天は折悪しく朝から雨となつた。萬一と云ふので控室にする爲めに天幕を大小2張用意したが雨の爲めに充分に利用されなかつた感があつた。定刻前より次ぎつぎと受付に來られ、係員は參會徽章、大會プログラム、記念品、エハガキ、申込者名簿等を入れた袋を手渡すのに多忙を極めた。特に製作した大會記念スタンプを押すことも忙しい仕事であつた。大東亞戦時下申込數266名の内20名程参加取消せるも246名の出席者を得て盛況裡に大會を開催することを得たのは誠に御同慶の至りであつた。

大會記念スタンプ

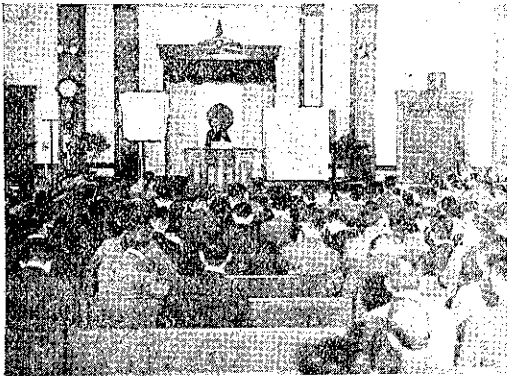


寫眞-1. 東北帝大内の受付



定刻8時30分より7分程遅れて開會式を擧げるに先だつて國民儀禮を終つて司會者内田委員長開會を宣し、東北支部長西田敏夫氏開會の辭を述べ、次に會長草間博士の講演があり記念すべき大會の開會式は終

寫眞-2. 副會長鶴見博士の開會の辭



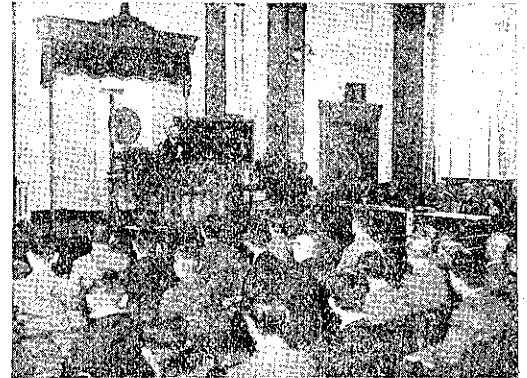
了した。

開 會 の 辭

支部長 正會員 西田敏夫

本日茲に會員諸君多數の御參集を得まして盛大なる土木學會第4回年次學術講演會を開催することの出來

寫眞-3. 草間會長の會長講演



ますことは其の衝に當りましたる常東北支部部と致しまして誠に欣幸とする所でありまして會員諸君と共に御同慶に堪へない次第であります。

吾國未曾有の非常時局下に於きまして公私一入御多用の處特に御都合御出席下さいました事に對し衷心より厚く御禮申し上げます。本大會開催に付きましては種々の關係上準備等非常に遅れ勝となり従つて論文募集や開催の會告等も大變遅延致しました爲め會員諸君には何彼と御迷惑をお掛けした事と存じますか此の點深くお詫ひ申上げて置きます。

會員各位が平素御研究に相成りました土木事業に關する學理や實地に付其の蘊蓄を本會に於て御發表に相成るのでありますから講演時間も充分差上げたいので有りますが大會プログラム進行上遺憾ながら極く切りつめた時間しか與へられて居ないので有ります。此の點も不悪御諒承をお願い致します。御手許に差上げました講演プログラムの通り本日午前中は本講堂に於て草間會長外2氏に特別講演をお願い致し午後より四會場に於て平行して講演を進めることに相成つて居りますから、夫々御關係の深い問題に付て適宜御清聴をお願い致します。

講演終了後は4班に分れ東北の各地を實地視察されることに相成つて居りますが丁度唯今東北の山々は縮秋を裝ひ殊に十和田湖、奥入瀬、裏磐梯等は紅葉を競ふて諸君の御來觀をお待ちして居ります。八月、秋田の新興工業地帯、青森港の青函連絡設備、十和田、猪苗代を

中心とする發電事業、北上川上流堰堤工事小坂嶺山資源開發等振興途上しある東北の現状を充分御視察下さいまして其の認識を更に一層深められんことを希望致します。

又名勝松島及鹽竈港は明日午後御案内致すことになつて居ります。

時局下物資の統制其の他の關係上設備萬端不行届にて御不自由御不満の點も有らうかと恐縮に存じて居りますが何卒御寛恕下さいませ様お願い致します。

今や聖戰第6年を迎へ大東亞戰滿10ヶ月御稜威の下忠誠勇武なる皇軍將士の御奮闘に依り陸に海に又空に赫々たる戰果を挙げ大東亞共榮圏の確立は着々と完成に近づきつゝあります事は私共の感謝感激措く能はざるところであります。一面皇軍勇士が奪き血潮を以て平定せられました各地には直に夫々の建設工作が進められて居るのでありまして凡ゆる建設工作の第一線に立つ者は總て土木技術者であることは申す迄もないことであります。

既に本會員の多數が北支に中支に將又南方各地に進出せられまして各方面に互り第一線將士に劣らざる危険を侵し興亞の聖業に日夜活躍盡されて居らるゝことは諸君も御承知の通りでありまして誠に感謝に堪へず遙かに敬意を表する次第であります。

戦後の建設工作は一つに懸つて吾等の双肩にあるのであります。戦果の擴大と共に吾等の活躍舞臺も日に時に擴大しつゝあるのでありまして土木技術者たるもの、使命亦愈々重大となつて参りました。今日諸君は既に各職域に於て御奉公に精進せられて居るのでありますが此の使命の重大性に深く思を到され一層身心を鍛錬し土木報國に邁進し以て聖業完遂と國運の進展に貢献せられんことを切望する次第であります。

尙本大會開催に當りまして各方面より賜りましたる御援助に對し謹しみて感謝の意を表する次第であります。

之を以て開會の辭と致します。

會長 挨拶 會長 草間 偉

大東亞戰爭勃發して茲に10ヶ月、忠勇無比なる皇軍は御稜威の下、未曾有の大策戰に於て善謀勇戰、緒戰に於て陸に海に數次に互り世界を驚倒する大捷を博し既に東亞の天地より米英勢力を驅逐し西太平洋の制海權を確保し、大東亞共榮圏確立の巨歩は着々と進められて居ります。私は先づ諸君と共に皇軍の武勳に對し衷心より感謝と敬意を表するものであります。然れども重

慶政權は未だ餘喘を保ち、英國は猶東亞に於ける勢力を頑守せんとして妄動し、米國も亦尨大なる資材を恃んで虎視眈々其反擊の機を窺ひつゝあり且敵手は多手富強を以て世界に誇り粘り強きを以て國民性とせる米英であります。従て今次の戰爭は實に皇國の興廢の岐るゝ大戰であり其前途極て遼遠であります。吾人は必勝の信念を以て一億一心國家の總力を擧げて最後の捷利を得るまで戦ひ抜くと共に飽くまで曠古の大業完遂に邁進せねばなりません。

凡そ近代戰の特徴として科學的發展技術の進歩なくしては戰爭の勝利は夢見ることには出来ません。又近代戰に於ては單に武力のみにては其目的を達成することは到底望み得ません。必ず長期に互る而もより困難なる建設が伴ふのであります。そこで我が國運を堵したる大東亞戰爭を勝ち抜き舉國の大理想を實現する爲に吾々土木技術人は現地にあると銃後にあるとを問はず専門とする土技術に於て第一線將士と同じ心を以て滅私奉公、此重要なる建設戰に努力邁進すると共に誠心誠意恒に其技を磨き術を鍊ることに留意し、此長期戰を通じて技術の發達向上に於ても決して米英に後れを取らず否寧ろ彼等を凌駕することが眞の吾々の責務であると確信するのであります。

斯の如く吾々日本人の創意による技術の發達向上を必要とすること今日より急なるはなき時機に際し、土木學會東北支部に於きましては此盛大なる年次學術講演會を仙臺市に開催せられ土木技術の向上進歩に絶大なる貢獻をなされることに就き私は西田支部長始め關係各位の非常なる御努力に對し土木學會を代表して深厚なる謝意を表する次第であります。又内地の各地は勿論遠く朝鮮滿洲よりも多數の會員諸彦が御出席になり平素御研鑽の結果を發表され本邦土木技術の向上に寄與せられることに就ても厚く御禮を申し上げます。茲に今回の年次學術講演大會の成功を祈りて私の挨拶と致します。

4. 特別講演 引續いて5分休憩の後に始めての試みである特別講演會に移ることになり司會者其旨を宣す。本大會副會長鶴見一之博士開會の辭を述べた後、次の順でプログラム通り講演があつた。大東亞戰爭中に相應しい題目なので話す方も熱があり、聴く方も一言たりとも聞きがすまいと云ふ熱心さで非常な感動を與へた。

1. 南方の道路に就て 内務技師 井關正雄君

60分

2. 動亂の世界を巡りて 鐵道技師 立花次郎君

80 分

3. 遠心力高級鑄鐵管に就て

會長 工博 草間 偉君

40 分

正午内田博士立つて感謝感激の辭を述べ特別講演會は閉じる旨を宣し、尙晝食のこと、13 時より學術講演に入ることを等を挨拶された。會員各位は第一、第二、第三の各食堂で用意された辨當を談笑の間にとつた。

13 時より第一、第二、第三及び第四の各會場に於て一齊に講演が行はれた。講演プログラムは省略する。本大會にては講演時間を 25 分間として充分に時間を與へた點、講演者の缺席者あつても繰上げたり繰り下げたりはしない、記入してある時間通りに進行することを勵行して少しも時間、順序に苦情の出なかつたことは愉快であつた。第 1 日目、10 月 10 日 13 時より 17 時まで、第 2 日目、10 月 11 日 8 時より 12 時までの 2 日に互つて 53 の講演者の内で 4 名だけ缺席で 49 人の方々が各部會會場で講演され、各室共熱心なる聴講者を以て盛況であつた。11 日の 11 時 30 分には第二、第三の兩會場からの會員も參同して第一會場での最後の講演が済むや、内田委員長司會にもとに閉會式に移り、西田大會副會長の閉會の辭あり、次に草間會長の發聲にて聖壽萬歳を三唱し一同唱和し學術講演會は完全に終つた。尙内田幹事長立つて市内に見物すべき風物なきにしもあらず、戦時下參詣すべき處もある點を紹介し又午後に見學する松島方面の説明も附言して參會者に對する案内の放逸をして後、時間の都合で晝食を本日は此處でとる事をのべた。各部會何れも晝餐を傾けての講演に裨益啓發する處多く、特に戦時色の題目も多く、戦時下の會合として土木工學報國の決心と、決意と覺悟を新にし有意義なる大會を無事終了し得たことは感銘深く、邦家のため、學會のため同慶の至りである。

5. 懇親會 遠方の各地から參會された會員各位が或は久調を叙し親睦を新たにし、或は始めて對面して親交を約する等お互に打寛いで懇親の目的を達するには疊の上で座つてやる會でないといふので戦時下であるが特に許しを得て所謂宴會を催すことにしたのである。第 1 日の夕刻學術講演がすんだ後 1 時間たつた 18 時を選んだのも最もよい日と時間であつたと考へたからであつた。豫定は 120 名の

參會者であつたが、實際は 161 名の出席者を得て大會の懇親會としては實に盛大な懇親會を開催することが出来て委員もてんこまひであつたことは感謝に堪へない同慶の至りであつた。

開宴に當り西田東北支部長立つて開會の挨拶を述べれば代表として草間會長の謝辭があつて宴會にうつる。纏て郷土藝術の踊り「さんさしぐれ」「鹽釜基句、はつとせ」「わしが國さ」等の餘興があり愈々宴酣に入る。

懇親會挨拶 東北支部長 西田敏夫

開宴に際しまして一言御挨拶を申し上げます。

今回當市に於きまして土木學會第 4 回年次學術講演會開催の機會に會員相互の親睦を計るため懇親會を催しました處、多數會員各位の御賛同を得まして此の盛會を開く事が出来ました事は誠に欣快に堪へない所でありまして主催者側の東北支部を代表して厚く御禮を申し上げます。

此度の大會に於きましては戦時下殊の外御繁忙の處を會員諸君多數の御參加を得まして極めて盛會裡に第 1 日の日程を無事終了致すことが出来ました事は誠に御同慶に堪へない次第であります。これ備に會員各位の御熱誠と本會委員各位の御高配によるものと深く感謝致しますると同時に、これが準備に當られました委員各位の御盡力に對し厚く御禮を申し上げます。

現下の非常時局に際し御多忙中の處を懇々御參集下さいました方々だけに極めて熱意ある御講演に加へて戦時下に最もふさわしき特別講演をも御願致し各方面に互り極めて有益なる御講演並御發表を拜聴致すことが出来、會員一同の裨益し啓發せらるゝ所が極めて多きと信じ此點講演者各位に對しこの席上に於て深謝の意を表する次第であります。

尙此度の大會に際しまして特に御援助を賜りました

仙臺市	日本發送電
東北配電	福島製作所
尾去澤鑛山	鯛生産業田川鑛業所
小野田セメント大船渡工場	
日本電興小國製作所	岩手炭鑛々業所
釜石製鐵所	日本發送電奥入瀬事務所
松尾鑛業所	宮城電鐵

の方々に對し會員一同を代表して厚く御禮を申し上げますと同時に、拍手を以て感謝の意を表したいと存じます。皆様御賛同を願ひます。

御承知の通り戦時下何事も統制下にある今日あらゆ

る準備等思ふに委せず何かにつけ不行届の點も多々あることゝ(懇親會の如きも皆様に御満足を御與へする迄に至らないと)存じまするが其邊は平に御寛容下さいまして御ゆつくり御歡談の上懇親の實を擧げられんことを切望してやまない次第であります。

デザートコースに入るや内田幹事長、菅幹事の指名に依てテーブルスピーチを開始した。先づ出席者中の大先輩遠藤藤吉氏の感激深き今昔物語りがあり、新人若人を激励し乾杯す。次いで三瀬博士(九州)立つて九州地方の土木工事の最近の状況を紹介し、更に災害の調査に依て昔の日本土木技術の意外にも進歩してをつたことを發見したと説明し會員各位の技術報國精神の振興を促された。次に東大教授田中博士立つて、滅多に土木學會の懇親會に出席しないのだが仙臺は學問の都市であるから奮發して出席したものだと先づ仙臺は獨逸のゲッチンゲンに似てみると云ふ世評のあることの讃辭を述べてから大東亞戦争に勝ちぬく爲めには若い土木技術者の努力を要する。土木學會の本部がニオン館の三室程借りてをつて用がたりると云ふ貧弱さでは大東亞の土木技術を指導し得るとは思はない。外國では〇〇でさい東京會館位の建物を占めてゐる堂々たるものだと立花氏の講演にあつた點を引用して第1におちつきのある堂々たる土木學會々館を早く建設して、其處から各部門について東亞の諸民族を土木的指導をしたいとの希望を述べられた。若い會員諸君の研究の益々盛んならんことを切望され又土木學會の益々盛大ならんことを望まれた。最後に高橋逸夫氏(京都帝大)立つて田中先生とはちがつて自分は毎回大會に出席し懇親會へもかゝらず出席してゐる。それは出席することによつて學問的にも實地をも視察し得る處多いからである。會員各位もなるべく都合つけて多く大會に出席して益々土木學會を盛大にしようではありませんかと結んだ。

斯くして和氣霽々たるうちに歡を盡し、非常な盛會裡に21時近づく頃解散した。萬事都合よく第1日を過し得たことを感謝した。

6. 講演者招待會 東北の爲めに特に仙臺市の爲めに遠方から大會に出席して講演された勞を謝する爲めに粗飯を差上げたい。而して仙臺藩主伊達正宗の土木事業をも視察して戴き且つ工業都市へと發展せんとする大仙臺市の建設に指導を仰ぎたいと云ふので招待したのであつた。49名の内35名の出席者を得て盛大

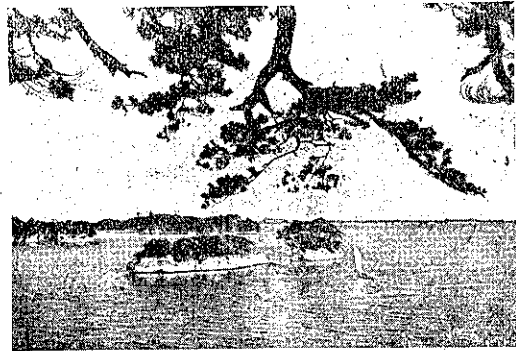
寫眞-4. 松島風景



寫眞-5. 松島風景



寫眞-6. 松島風景



に開會し、市長の挨拶があり、續いて會長代理金森誠之博士の謝辭があり、市内及縣内の土木工事の今昔を語りあひ一同歡をつくし、市長の好意に感謝しつゝ21時散會した。

7. 見學旅行 第2日講演會終了後希望者は市内の名所見物をやり又案内人について多數の方が松島の見物をやり日本三景の一を充分に賞讚した。

寫眞-7. 松 島 風 景



第 3 日 10 月 12 日 (月) は早朝から各地見學旅行である。豫定の如く 4 班に分れて出發し翌 13 日 (火) に有意義に無事終了した。各班参加者は第 1 班 18 人, 第 2 班 30 人, 第 3 班 10 人, 第 4 班 17 人 合計 75 人と案内者が支部より 4 人加り, 各地方にては多數の同行案内者を交へて便宜を興へてくれたこと

は地元の役員各位に深く感謝の意を表する次第である。東北の地方で実施中の土木工事の一端を視察して下すつた見學参加者各位に對して尙支部より深謝する次第である。

以上で大東亞戰爭下自肅の中に第 4 回年次學術講演會は終始盛況裡に土木技術報國の赤誠にもえて大會プログラムを完全に終つたのである。

大東亞戰爭の大詔を拜して 11 ヶ月目に開催した本大會は遠く北海道滿洲からも多數の出席者を得て開催の趣旨を全ふし得た事は會員諸賢の一方ならぬ協力と開催地關係各位の絶大なる御盡力御援助によるものであつて茲に衷心より厚く厚く感謝する次第である。

そ の 他 記 事

土木學會誌第 28 卷第 11 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

華北政務委員會建設總署 周 迪 平 1 級

正 會 員 (入 會)

石田榮七男 小林泉吾 近藤茂 岡田頼平 林田 實 君ヶ袋友成
高木 力 廣谷仁宏

准 會 員 (入 會)

相原武夫 伊藤 清 淺野 寛 川崎晴雄 林二三夫 外國光雄
松川伊佐雄 飯塚六男 石田三郎 江尻四郎 遠藤 潔 小野 實
奥村武正 押見正視 川畑富義 佐野正久 只野富藏 田中三一
平野四巳 新村義雄 如齋宗一 高口利雄 武山廣志 知久收男
鳥居長四郎 長脇正美 畑井 保 諸澄光次 弓場上克治 三國多賀男
宮前信男

學 生 會 員 (入 會)

秋田貞雄 淺岡康明 荒木道雄 板尾純一 千 炳 寔 植田孝夫
小笠原弘 大内康三 大柳義雄 逢坂敏夫 川崎精一 岸上重一
北崎武利 久良喜代彦 葛生新一 重富行雄 薛 志 修 中川三夫
中 塾 肇 永山岸夫 成田 饒 馬場嘉郎 日高敏明 藤吉三郎
山本 愈 山本安一 山本有 三 石川武雄 岩 出 進 小川 雄

孝郎根材 中宮實榮 田西李二 生行二雄 春孝悌政 野野山持 上中橫倉 宏夫郎宏 橋益七 橋田永木 柳戶德鎔 二胤彌三久 浩廣照省裕 橋上澤谷下 高井柳角山 男孝一正章 義清龍喜 川氣島井下 北和原今山 郎吉郎勳二 太登三曉 寬見勝橋尻 岡見橋尻 北鶴林石森

員 (轉格)

敏平三藏郎雄本一三一郎一吉治重一介 秀昇健夏四英松直浩精治朝豐正守幸哲 村屋藤形津元出藤澤垣島村井崎原本上 木古網伊大木小佐芹谷中野藤宮江山尾 繁懋嘉衛治雄郎潔磨郎雄郎一治博三 睦幸吉四五光一武三隆友芳博 村類來手島江佐藤木元島澤山島島口川 河筑朝井大鐘桑佐鈴龍中福福水內山小 郎清祐雄三郎夫造一寬郎勇亨元雄市郎 九利敏哲三陸奧真憲二 正正駒四 源見砥關本喜河藤野橋岡野田宋木口川 川高青井岩桂黑近杉高中西福三植山小 治喜龜政一吉秋郎夫吉次子夫郎浩稔市 賢弘義定秀正四義孝政千武七 新 田川原上本津保山井木居村塚本原川 太黑相井岩貝久香城高島中平松上山小 功美夫夫直一三昇雄薰次郎巳夫郎治夫一 常保月信貞邦芳正太勝正三順保倫 平戶內戶本原林岡木井村口正順保倫 大城矢井一岡北小島高筒中樋古森南吉望 韓儀夫秋一作一一治雄毅郎博衛夫吉造治 道一千正清虎大新初清定五兵虎留金正 江村內井田原田西藤澤田會根本和森藤澤道 入木卷荒飯大北小齋田玉中橋藤宮遠吉尾

員 (轉格)

登章雄勤郎男豐彦亨弘二晃海寬之夫男 敏利八芳利與四利福志 場山上藤田見田淵野村崎崎久西田野藤 相秋井伊池石稻岩宇梅小尾大大岡荻加 良實孝裕郎雄雄男一勇威治郎夫夫登生 一忠一勝實保香保惣司一光義喜 川田上藤田戶池田田居形栗寺上鍋田村田 相秋井伊池石稻岩宇生小小大大岡沖長 孝彦傳郎男裕夫雄浩義讓一宏則治博郎 義芳次文正武美正原長上正俊太 部木川善塚田穗下佐田笠野上坪田本壽 阿赤荒伊飯石出岩宇內小小大大岡岡奧 幸雄司孝雄廉郎善清人也晶助平三三郎 正好噓忠文一一美正善芳嘉陽季太 立木井十藤山尾村佐田川野智塚田本村 足赤荒五伊諫板今宇內小小越大大岡奧 人實進健雄彦光清三健渡彦郎茂平覺音 正善英菊和正定渡藤村五文本村 藤木田楓藤袋寺泉本渡藤田藤島田本村 安青麻伊伊池石今岩牛遠小尾大大岡奧 男明三夫昇正勳武助雄治郎審美彌延夫 重友禎富藤原山井之道繁周三義好保 達木野上藤原山井見村藤崎澤貫田原 安青淺井伊池石今岩上遠小尾大大岡奧

尙郎典區親溫雄造涉法進進逸志一二郎雄清人二治一達喜一次晃博夫良郎司新男郎孝東一清宏俊
 晉一義營正 矩耕 重 良廣 淳憲 三文 義誠 彥守 榮 正榮 惠 秀 三 太 哲 基 一 太 信 最 一 猛
 內本林野本城賀古峨井木藤山木田十木中井橋田榮島田村崎川崎場口田原置野宮浦山込内口
 垣勝上河岸桑古鄉嗟酒佐佐杉鈴鹽柴鈴田田高武趙寺豐中長西野馬林穂深藤日細間松松三宮村
 次博孝郎夫男男夫互好之貫昇悟輔治郎之幹賀三志稔次之德已夫雄甫次六男正夫一淵郎信一正慎讓
 健重三俊輝幸車喜之敏三知俊羊忠榮洪然克茂武素源雅幸忠健玉義一智良
 島山田合地田松山藤本田藤藤村新木名原木原中地橋井和谷川島井本口場口澤原江越子下岡野上
 鹿梶鎌河菊黑小甲佐坂澤佐佐杉鈴椎篠鈴園田大高武千坪具中長新野馬林播深藤古彭堀增松三耳村
 正郎功眞男夫郎雄博猛進郎之二繁雄一郎郎次次男郎忠文明郎啓輔夫翠次星隆郎司雄彌雄淳侃男仁
 道五吉實一行藤本井藤藤村木水戶友中正健克三常善善良利勤翼正隆廣國秀文利芳
 納桐田口志野林藤藤本井藤藤村木水戶友中正健克三常善善良利勤翼正隆廣國秀文利芳
 加片鎌川貴熊小俊近坂澤佐佐杉鈴清穴城關田伊高武椽堤富中仲新野羽濱原平藤藤保堀牧松三南宮
 節也勇郎雄雄一光治雄平夫男夫雄織雄郎夫苗之司彥男清博三司作男互行治重一正數郎一肅正三弘
 藤和喜一敏貞重喜敏了郁匡雅久伊貞敏重賀孝文豐英健俊衆一川正篤光英正二年永淳憲
 藤岡森上村閑助味野田野藤藤內木伯松田川中田田內浦川樞川山居元谷口瀨田田本足川野岡浦間本
 加片金川木空小五今坂笹佐佐杉鈴志重霜瀨田但高竹谷辻富中中新根長濱原平藤藤帆堀牧松三溝宮
 進彥夫郎勇晶郎之勉彥郎門之光慈男充肇衛忠一政巴信敬之雄要獎雄也郎次夫雄夫則郎種治治雄英
 藤吉卓四三友高野正四右孝善孝俊力繁清重克博樹教謹次良利靜睦昌三美尾周芳弘
 藤原勝村瀨泉村野藤井渡藤原木木松村木中村田畑川本美山屋本谷岡口井井間見江田尾尾堀崎
 加柏桂川木清小古越齋櫻佐佐菅鈴鈴茂下鈴田田高武塚德中中長西長濱原平藤藤邊堀前松丸三宮
 利武郎夫登雄華燾雄裕明夫三輝章夫光已菴一雄三博弘也男一一企倫弘吉健久造人次正美雄幸夫人
 金次精恒景林文義秀修義利朝克基孝一健輝貞浩健代好親經輝貞喜喜正忠邦義
 藤次本澤景林文義秀修義利朝克基孝一健輝貞浩健代好親經輝貞喜喜正忠邦義
 加柏桂神河北潤古越齋酒佐佐未鈴鈴讖澁鈴田田高高武陣東中中長西野橋原菱福藤別堀前松丸三宮

村崎	明隆	村山	友幹	弘雄	室屋	清兼	次治	望月	邦國	夫暢	百瀬	喜孫	義之	森永	銈昌	次雄
森八	重柏	森八	木卷	不弘	森矢	下代	保壽	森矢	國一	也郎	安井	本井	之雄	安山	川岡	二雄
安原	節俊	安山	原形	章茂	柳川	田光	礎弘	柳沼	善英	史郎	山本	五重	雄男	山横	秀昌	一雄
山吉	海田	山吉	藤佐	俊一	山吉	龍三	弘郎	米田	善三	敬文	和松	原田	信一	磯鈴	汀清	一雄
小野	川邊	森渡	邊海	茂榮	今松	井邊	光則	佐石	藤川	朗夫	和片	中山	一吉	和黒	木田	夫保
中渡	岡崎	岡矢	本部	五	渡河	内	威	大白	杉川	康	中	川	稔	橋	森本	昇
福崎	正英	八安	不弘	章茂	柳川	田光	礎弘	米田	善三	敬文	和松	原田	信一	磯鈴	汀清	一雄

土 木 學 會 々 員 數 (昭. 17. 10. 26. 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	賛助會員	合 計
2	4602	6490	1275	126	25	12520

正會員 華北支部長 郡新一郎君は昭和 17 年 11 月 9 日逝去せられたり 本會は靈前に弔詞並花輪を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 清水三蔵君, 西 義一君, 福井 靜君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す